



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 48 号 2016/3/10 発行）

◆◆ <<http://www.iima.or.jp/>>



＼1. 理事長 行天豊雄 コラム／

幸せな日本

<<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2016/20160310gyoten.pdf>>

世界中が景気後退の再来に脅えている。ロシアとかブラジルなどの特定の国を除けばそれ程危機的な状況にあるとも思えないが、メディアや国際機関は声高に警鐘を鳴らして、…

＼2. 本田敬吉 コラム／

金融の IoT 化

<<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2016/20160310honda.pdf>>

IoT（Internet of Things）の波はわが金融業にもひたひたと迫っている。金融も”things”の一端である以上それは必然かもしれない。2008年12月に「電子記録債権法」…

■ホームページ 「IIMAの目」

短編コラム「IIMAの目」を、ホームページ最上部にて毎週初更新掲載しています。是非ご覧ください。

<<http://www.iima.or.jp/index.html>>

1. 「全人代と中国の構造改革議論」 佐久間浩司
2. 「東アジアの協調に向けた『国民の努力』」 秋山文子

■IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新

<<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>>

《掲載内容》

○IIMA Global Market Volatility Index

（グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数）

○購買力平価グラフ

(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円)

■今月の新着レポート

1. 「揺れるブラジル」 森川央

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2016/280_j.pdf

ブラジルは2016年も大幅なマイナス成長になると思われる。不動産価格の低下がバランスシート不況を招くからだ。一方、政治の混乱で有効な景気対策はとれない。汚職捜査がルラ前大統領に及んできたことで、労働者党政権はピンチを迎えているが、仮に大統領が代わっても景気底入れを期待するのは難しいだろう。

2. 「南アフリカ経済の現状と今後の注目点」 福田幸正

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2016/NL2016No_6_j.pdf

南ア経済は資源価格の下落、干ばつ、深刻な電力不足によって当面1%前後の低成長。ランド下落は、外部環境悪化に国内政治の混乱が拍車をかけているが、底を打った模様。2月末上程の新財務相による予算案に注目し、市場の信認回復動向を見守る必要がある。

3. 「マレーシア経済の見通し」 五味佑子

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2016/NL2016No_5_j.pdf

マレーシアはASEANの中でも貿易依存度が相対的に高く、また輸出に占める中国依存度、一次製品の割合も比較的高いことから、中国経済の減速及び一次産品価格下落の経済への影響が強く表れる可能性がある。国内情勢は落ち着いてきているが、これら外部要因の影響に注意する必要がある。

4. 「インドネシア経済の現状と注意点」 秋山文子

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2016/NL2016No_4_j.pdf

インドネシア経済は資源輸出依存度が高い脆弱な構造であり、「双子の赤字」によってルピアに売り圧力がかかりやすい状態は続こう。安定的発展のためには外的ショック耐性を保ち、インフラ整備、産業高度化を進める必要がある。

5. 「政策転換を進めるアルゼンチンへの期待と不安」 森川央

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2016/279_j.pdf

アルゼンチンのマクリ新大統領が予想を上回るスピードで改革を進めている。国際社会への復帰と景気回復への期待が高まる一方、高インフレ下で賃上げ交渉を軟着陸させる必要がある。

6. 「英国の欧州連合（EU）改革要求とEUの対応

～EUは英国をつなぎとめられるか？～」 山口綾子

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2016/278_j.pdf

英国は欧州連合（EU）に対し、①経済ガバナンス、②競争力強化、③加盟国主権の回復、④移民政策の4分野についての改革を要求した。改革案の概要およびEUの対応について解説。

7. 「ユーロ圏経済の現状と展望

～スペイン・イタリアは財政危機を脱したと言えるか？～」 山口綾子

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2016/NL2016No_3_j.pdf

スペイン、イタリアは欧州中央銀行の金融緩和継続のもと、原油安に支えられた個人消費の堅調などにより、2016年も景気回復が続く見込み。ただし、スペインの政治情勢、イタリア金融セクターの不良債権などリスク要因は残る。

8. 「トルコの国情調査

～政治・経済・外交の悪材から今後成長率は低下へ～」 中村明

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2016/NL2016No_2_j.pdf

トルコ経済は個人消費の底堅さを主因に拡大を続けてきたが、①インフレの高進や高金利、②トルコリラ安による原油安の効果の相殺、③ロシアの制裁の影響など総合的に考えると、今後の展開に関しては慎重にみておくべきである。

9. 「タイ経済の現状と展望

～足元のリスク要因からみる今後の注意点～」 田村友孝

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2016/NL2016No_1_j.pdf

タイ経済は徐々に持ち直しつつあるが、足元では複数のリスク要因を抱えている。爆弾テロ事件の影響を受けた訪タイ観光客数は回復傾向にあるものの、中国経済の減速に伴う輸出の停滞、対内直接投資の減速、軍政の継続など懸念材料も多い。

■ 今月の IIMA

先月 25 日、IIMA が毎年開催している国際金融シンポジウムが行われました。今年は IIMA 設立 20 周年記念ということで、従来と少し違ったものでした。テーマは「東アジアの協調的発展～その展望と課題」ということで理事長の行天を含め、程永華（Cheng Yonghua）中国大使館特命全権大使、司空壹（Il SaKong）元韓国財務大臣と、日中韓の知識人による講演とシンポジウムが行われ、政治、経済、文化と内容は幅広いものをカバーしたものとなりました。

日頃は、三国間の違いについて報道されることが多いように見受けられ

ますが、シンポジウムでは逆に、三国共通のもの、共有できるものについて多く議論されました。伝聞、報道に過度に依存することなく、他人・他国とはなるべく直接話を聞き、自らの感性をはたらかせて物事を判断していかなくてはなりません。こうしたあたり前のことを改めて感じたシンポジウムでした。

多くのご来場、誠にありがとうございました。また、追って IIMA ホームページにシンポジウムの内容を掲載しますのでご覧ください。

【バックナンバー】

<http://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>

【次号】

2016年4月12日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<http://get.adobe.com/jp/reader/>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

Copyright (C) IIMA All Rights Reserved.